

第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

日 時：平成27年10月26日（月曜） 13時30分から 14時45分まで

場 所：習志野市消防庁舎4階 大会議室

委員出席者：朝倉委員（会長）、田村委員（副会長）、寺木委員、師橋委員、時田委員、
菅野委員、小林委員、古賀委員、布川委員
（欠席者：有田委員）

事務局出席者：諏訪企画政策部長、遠山企画政策部次長
越川主幹、伊藤主任主事、柴垣主任主事

議 題：（1）パブリックコメントにおける意見について
（2）習志野市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「総合戦略」の
策定について
（3）その他

議 事 録：

会長	開会に先立ちまして、本審議会は、原則公開ということですので、本日、2名の傍聴者がおりますことをご承知おきください。傍聴者の皆様は、注意事項の遵守をお願いします。
会長	開 会 ただいまより、第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは次第に従いまして議題を進めさせていただきます。 パブリックコメントを受けて、様々なご意見をいただいておりますので、お手持の資料に基づきまして事務局からご説明をいただいた後、皆様からご意見、ご質問をいただければと思います。 それでは、事務局よりご説明をお願いいたします。 議題(1) パブリックコメントにおける意見について <資料2、参考資料1～4に基づき事務局より説明>
会長	ありがとうございます。今回お示しいただいた案というのは、パブリックコメントに対する対応案ということでよろしいでしょうか。また、あくまでも今回ご説明をいただいた内容については、資料2に記載のもの以外は「創生総合戦略（案）」の中身の修正に及ぶものではないと理解してよろしいですか。

第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	ご質問や KPI の設定の仕方、考え方に対するご意見であると解釈しています。
会長	パブリックコメントの修正対応の中身については次の議題で取り扱うということでしょうか。
事務局	はい。
会長	只今の話については、むしろ「創生総合戦略」を市民の皆様にご示すのかというところだと思います。思想的な部分は非常に重要なところですので、例えば広報習志野やその他メディア等を通じて、策定経緯などを市長の言葉として、様々なところに露出していくことが必要になるのではないかと思います。事務局として、今後の広報の仕方などをどのようにお考えですか。
事務局	「まち・ひと・しごと」につきましては専用のホームページを設けており、本日いただきましたご意見をもとにホームページの構成・掲載を考えていきたいと思っています。また、市長コラムとしても取り上げられるよう調整したいと考えております。 また、広報 11/1 号に掲載予定ですが、詳細を記載できるだけのスペースは確保されていないため、今後、「アクションプラン」がまとまった段階で、ご説明できるページを設けたいと考えています。
会長	わかりました。 パブリックコメントについて、「創生総合戦略」の個々の記述に係わらない部分については、このように進めていきたいとの説明でしたが、委員の皆様からご意見やご質問はございませんでしょうか。
各委員	(意見・質問等なし)
会長	市内部で決裁をとった対応表を確認しないと、意見を出しづらいのが実態かと思いますが、対応表について今後、委員の皆様が確認する機会などはあるのでしょうか。
事務局	対応表の内容については、市の意思決定になり、決定事項についてお示しさせていただく形になるかと思います。対応表の内容については、行政の基本的な考え方を意思決定し、フィードバックするものなので、それに対し、

第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	委員の手直しを受けることは難しいと考えます。 議題1の内容については、議題2とも関係する部分もありますので、適宜必要があれば議題1に戻るという形で、先に議題2を進めさせていただいてもよろしいでしょうか。 それでは、事務局よりご説明をお願いいたします。
	議題(2)習志野市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・ 「総合戦略」の策定について <資料1、2に基づき事務局より説明>
事務局	ありがとうございました。パブリックコメントの意見を反映し、計画書の修正を行った部分についてご説明をいただきましたが、何かご質問・ご意見はありますか。
菅野委員	P.115の「平成27年度実施事業一覧」について、各事業に番号が振ってありますが、前回までは施策の下に番号が記載されていたため分かりやすかったのですが、今回はこのページだけを見ても何の番号かが分からなくなっています。対応する番号について、表形式にしていただけると分かりやすいかと思います。 また、P.36の「結果詳細の参照」のページ数がそれぞれ1ページずつずれていますので修正をお願いします。
事務局	ご指摘の通り、修正対応させていただきたいと思います。
会長	P.36については、赤字で書かれているせいか、見にくく感じます。見出しなどを入れられないでしょうか。ポイントになるようなものがあつた方がわかりやすいかと思います。 また、「(2)市民意識調査の結果」、「(3)市内立地・隣接3大学における大学生意識調査の結果」については、結果の概要を掲載していただいておりますが、「(4)その他アンケート調査の結果」については、調査実施報告のみとなっています。結果の概要があつた方がよいと思いますので、可能な限り、ご対応いただければと思います。
事務局	見出しの部分及び(4)その他アンケート調査の結果、(5)各種意見交換会の結果については、主な内容を記述させていただきたいと思います。

寺木委員	具体的な施策と KPI についてですが、単一の事業で色々な効果を目的としているため、同じ施策を再掲されていますが、それを説明している部分が見当たりません。 また、同じ施策を違う目標の中で使用するとなると、KPI は変わってくるのではないのでしょうか。例えば、P.60 の③と P.62 の②で「大学」という文言が入る、入らないという違いはありますが、同じ指標が使われています。そうすると、P.59 の「(ア) 若者の定着・定住促進」の③の項目と P.62 の「(ウ) 地元大学等の活性化と協働による地域の成長力の向上」の②の項目では、施策自体が異なるため、それを評価する KPI の値も本当は異なる数値になるはずだと思います。 KPI が同じでも良いと思うのですが、同じ KPI を設定している根拠・説明が必要であると思います。
会長	現在出されている KPI はアウトカム指標であると思いますが、「アクションプラン」を作成するにあたっては、アウトプット指標が必要になると思います。例えば、「学生が地域とのふれあいで満足と感じている割合」について、「そのために何を何回実施するのか」、「その参加者は何人か」など。そのレベルまでブレイクダウンしていくと、同じ目標であってもそこに至るまでの手段や道筋が異なってくることがわかるかと思います。「アクションプラン」の作成にあたっては、特にアウトプット指標を明確にしていくことが大事であると考えます。
古賀委員	P.62 の②について、「大学」という文言を追加していますが、KPI は学生だけを対象とした指標になっていますが、良いのでしょうか？
事務局	こちらの KPI の設定については、庁内でも議論を行ったのですが、KPI をどのように設定するかについては時間が足らず、このような形でまとめさせていただきました。 大学が実施する事業については、例えば、アンケート調査を行っていただくこと等で、住民側の満足度を測定できるのではないかと思います。 現段階で大学等との調整ができておらず、今回は学生の部分しか、KPI の設定ができていませんが、大学との協働の中では「高度な学習機会の提供」等を行う中で、学習を受けた方の満足度やそれによって何が向上したのかなどを、本来は KPI として設定すべきかと思っています。
寺木委員	逆に言いますと、例えば、(3) の「(ア) 若者の定着・定住促進」であれば、「学生が地域とのふれあいで満足と感じている割合」は大事であり、ま

	た「(ウ) 地元大学等の活性化と協働による地域の成長力の向上」でも「学生が地域とのふれあいで満足と感じている割合」が大事だという解釈であれば、同じKPIを設定しても良いという考え方もできると思います。 会長がおっしゃったように、アウトプットの部分とアウトカムの読みこなし、両方からのアプローチの仕方や説明の仕方があるのではないかと思います。この指標がダメだという話ではなく、市としてどのように考えているのかを説明できるということが大事だと思います。
事務局	当該施策に関しましては、指標としては追加すべきと思っております。限られた時間の中ではありますが、再度、検討をさせていただきたいと思えます。
会長	大学というキープレイヤーが出てくると、P.63の③と④についても、共同研究やインターンシップ等に関わる部分が出てくるものと思います。その辺りも含めて、ご検討いただければと思います。
布川委員	大学の関連について、色々な部分で「大学と学生の力」や「大学による学生の」という表現がありますが、「大学の中の学生をどうするのか」という書き方をしてしまうと、市内3大学との取り決めなどしか評価できなくなり、市内の大学に就学していない学生や地域に住む大学生など、幅広く若い世代の意見が取り入れられないのではないかと思います。現在の書き方では、「市内3大学に所属する学生」という制限があるように感じています。 大学とのやり取りは非常に大事であると思えますので、市内3大学以外にも独自に活動している学生等も参画できるように、「大学・学生」といったような表記に変更したすることが望ましいと考えます。
事務局	P.60の(ア)③につきましては、ご意見を踏まえて修正させていただきますが、P.62(ウ)①については、「地元大学等の活性化」となっていますので、少し意味合いが異なる部分があるかと考えます。もう一度見直しをかけ、適宜検討させていただきたいと思えます。
会長	P.60の(ア)③については、「大学と連携した」という表現では、連携できる大学は市内3大学に限られてしまうとも読み取れるため、一般的な学生が幅広く参加できるようなニュアンスに変更される方がよろしいかと思います。「市内にいる学生」という視点は重要なものと考えます。
小林委員	P.75ページの(イ)③「高齢者の住まいの整備」について、市内からの高齢

	者を念頭に置かれているのでしょうか、それとも市外の高齢化に伴う需要やCCRCのようなものを想定しているのでしょうか。
事務局	現在のところ CCRC などは想定しておらず、現在の市民が入ることを想定しています。
会長	今回の「まち・ひと・しごと」は CCRC も一つの目玉ですが、市として、検討している経緯などはないということによろしいでしょうか。
事務局	現段階では、CCRC そのものの議論の状況を見守るに留まっています。
会長	この懇話会を通じて、地域連携が宿題となっていたと思いますが、事務局からのご意見として、計画書に書かれていないことも含め、今後の地域連携のあり方についてどのようなお考えがあるのか、お聞かせ下さい。
事務局	地域連携については、P. 80 から項目を記載していますが、今回、パブリックコメントを実施するにあたっては、近隣市である千葉市、船橋市、八千代市に伺い、本市のパブリックコメント案の説明と地域連携の本市の記載事項等について担当者レベルでの協議を行って参りました。 近隣市のスタンスは各市町村で異なっており、例えば、千葉市では千葉県のダム機能を担っており、政令指定都市としてリーディングされていく立場の中で、何かしらの形で連携ができると良いというお話をいただいています。ただし、お互いに予算等が絡むこともあり具体的なことについての掲載はできておりません。千葉市は3月末までに計画を策定する予定であり、何かしらの形で連携していけたら良いとのご意見をいただいています。 船橋市については、独自の施策展開を図っていることもあり、現時点ではあまり地域連携については検討されていないとのことです。今後は習志野市側から具体的な提案を持ちかけ、連携を図っていければと考えています。 八千代市については、同等規模の自治体ということもあり、是非一緒に連携していきたいとのご意見をいただいています。また、八千代市側からの具体的な提案としては、鉄道沿線の活性化の中でも具体的な取組ができないかとのお話もいただきました。八千代市も総合戦略案をまとめておられる状況ですので、具体的な内容については現時点では記載は難しいことから、意見交換の実施という部分までの記載とさせていただきます。具体的な内容や予算等が決まってきた段階、もしくは計画の見直しを進める中で具体的なKPIなどを今後設定できれば良いと考えています。 その他にも、浦安市や市川市などとも意見交換を行う機会がありますの

第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	で、「まち・ひと・しごと」についてどのような連携が図れるかという点については、今後詰めていければと考えています。 この時期では、どの市町村においても、まだ決められないというのが実情かと感じています。
会長	今後、「連絡協議会」のような機会は増えていくのでしょうか。
事務局	近隣市で構成し、毎年、定期的実施している「定例会」もいくつかありますので、その場も含めて、連携について検討していくことになると思っています。また、今年の定例会でも「まち・ひと・しごと」については、議題として挙がっています。
小林委員	地域連携については、相手があることなので難しいと思います。 群馬県上野村などとは今現在も連携を行っていて、今後もその延長線で連携を続けていくという理解でよろしいでしょうか。
事務局	P.80に掲載している4自治体（南房総市、山梨県富士吉田市、京都府京田辺市、群馬県上野村）とは交流都市という枠組みの中で、これまでもお互いのお祭りなどに参加し、物産・物品の販売等を行っています。 また、防災分野での協力なども進んでいるため、今後はさらに交流を深めていきたいと考えています。今回、各自治体には電話にて連絡をとらせていただきましたが、その他の地域連携については、具体的な話までは進んでいない状況です。
小林委員	小学生・中学生といった子どもたちがお互いに行き来するような交流はないのでしょうか。
事務局	例えば、山梨県富士吉田市には習志野市の宿泊施設があり、市内の小中学生が体験学習を行っています。富士吉田市から本市へ来るということは特になく状況です。
小林委員	工場見学などに来てもらっても良いのではないのでしょうか。 また、東京・千葉・埼玉では、団塊ジュニア世代は団塊世代がよその地方から来て移り住んできたことから田舎があるかもしれませんが、団塊ジュニアの子どもになると、都会に就職してしまうため、田舎がありません。そこから意識して、ふるさとのような位置づけにするような取組みがあるとより良いのではないかと思います。

第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	そういう機能も本来であれば習志野市が持っていないといけないのかも知れません。
寺木委員	来月開催される『市内3大学生「まち・ひと・しごと」政策提案発表会』は、大学関連の施策の中に入っているのでしょうか。
事務局	入っております。こちらに関しては、P.117の「地域定着促進事業」として、先行型交付金の対象事業の1つとして今年度実施するものです。
寺木委員	P.59の②のように、実施前後でアンケートを行うのでしょうか。
事務局	参加前と参加後で比較を行うため、アンケートの実施を予定しています。
寺木委員	KPIの対象になるということですね。事前のアンケートについては、そろそろ開始しないとまずいと思います。
事務局	政策提案発表会に関しましては、KPIも含めて、所管課の方に確認させていただきます。
布川委員	政策提案発表会とは、こういった内容なののでしょうか。計画の策定が終わっていない段階で取り組むということは、策定に関連することだと思われますが、こういった関係性があるのでしょうか。
事務局	「地域定着促進事業（政策提案発表会）」については、平成26年度の国の補正予算において、平成27年度中に総合戦略を策定し、かつ、そこに位置付ける事業であることを条件に、交付される地方創生先行型の交付金を活用するものです。本市ではまだ総合戦略の策定は完了していませんが、戦略に位置づけるとの条件のもとで、KPI設定などの細かい条件はありますが、先行的に実施する事業、かつ平成27年度中に完了する事業として、国からの交付金を活用するものであります。 昨年、市内3大学では市長との意見交換会を実施しており、今回はそれを少し発展させた政策提案発表会という形で、賞を設け、コンペのようなことを実施していくことを考えています。
寺木委員	表題からすると、政策提案発表会で出された意見については、パブリックコメントと同等の扱いにする必要があるのではないかと思います。

第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	少なくとも学生はそうのように受け取りかねず、賞を渡して終わりという話ではなく、可能であれば計画案に反映できるような手続きをしていただけると学生側もやる気が出るものと思います。 平成28年度の予算編成と合わせ、「アクションプラン」を作成していく予定であるため、予算編成上、間に合えば、そちらに反映していくことは可能だと思います。
会長	「創生総合戦略」の中身だけではなく、今後の「アクションプラン」の作成にあたり、事務局に対応して欲しいことなどについて、ご意見をお伺いできればと思います。 また、策定懇話会自体は本日で解散となりますが、今後、「アクションプラン」の作成にあたっては、個々の委員の皆様にご協力いただくこともあるかと思います。今回の懇話会として、事務局に遺言を突き付けて頂ければと思いますが、いかがでしょうか。
小林委員	「ふるさと納税」の活用の仕方を教えて下さい。「ふるさと納税」の活用の仕方には大きく2つあります。1つはマーケティングで、返礼品として何が評判なのかということ把握することであり、もう1つは「ふるさと納税」による寄付金で事業を行うことです。例えば、広島県の神石高原町では犬の殺処分ゼロを目指す事業に寄付金が活用されています。習志野市においても「ふるさと納税」の活用について、何か特色を打ち出せたら良いのではないかと考えます。
会長	沖縄県の南城市では、寄付の目的について5つくらいのメニューから選ぶことが可能となっています。習志野市ではそのような取り組みはしているのでしょうか。
事務局	納税をいただいた部分については基本的に基金に積み立てていくこととなりますが、基金には福祉、音楽振興、まちづくり、災害等、数種類があり、何の目的に使用してもらいたいのかを選択できるようになっています。これは「ふるさと納税」に限らず、一般的な寄付金に関しても同様となっています。
小林委員	現時点では、国全体で寄付額が130～140億円位しかないようですが、3倍位の勢いで増えていっているようですので、今後益々やる意義があった方が良く考えます。

第4回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	納税をいただいた方への返礼をどうするのかということも考えなくてはなりません。
小林委員	本来であれば、返礼なしに惹きつけられると良いのですが。
事務局	現時点では惹きつけているというわけではなく、ごく限られた方のご寄付がいただけているといった状況です。
会長	他に、今後に向けて、ご意見はございませんでしょうか。
菅野委員	計画を策定した次の段階が最も大事だと思います。次の段階にブレイクダウンした時に、どれだけ具体的なものを作ることができ、また習志野市の関連するステークホルダーをどれだけ巻き込めるか。そういったところをシナリオや形にして「皆さんもやりましょう」といったPRや雰囲気作りを行い、結果として習志野市に関係のある方々、全員と協力していけるような仕組みを作っていただければと思います。 また、私の立場上は民間企業ですので、民間企業や金融機関等の方々のお考えや意見を逐次反映して、「アクションプラン」の計画期間の中で、断続的に見直しを行いながら、計画を実行していただければと思います。
田村委員	大学の先生方もそうですが、一般の市民の皆様も意識が高く、コンテンツをお持ちで、それらを「何かしらの形にしたい」「発信していきたい」というエネルギーがものすごくあります。そのため、「総合戦略」をそういった方々の活動の指針や発想の根源として活用できるものにしていただければと思います。
会長	ありがとうございます。 事務局におかれましては、今回に限らず、これまでの意見を踏まえ、最終的な計画の取りまとめに繋げていただければと思います。 どうぞよろしくお願い致します。
議題(3)その他	
企画政策部長	委員の皆様におかれましては、4回に渡り、熱心なご検討、ご意見、ご要望等を賜り、誠にありがとうございました。 この「人口ビジョン・総合戦略」の策定にあたっては、担当も非常に苦労をしており、庁内的にも限られた時間の中で、各部局と合意形成を図りなが

会長	らを計画を策定していくことは、至難の業でありました。しかしながら、習志野市として、この先も生きていくために、ひと踏ん張りしなければならないとの認識のもと、しっかりと取り組んで参りました。 パブリックコメントにつきましても、文章量がある計画書にも関わらず、4者・44件からご意見をいただくことができました。市民の皆様にもご関心をもっていただけた計画だと思っております。 策定自体は一旦、ここで区切りがつきますが、これ以降も具体的な施策や「アクションプラン」を進めていく上で、「何をどうするのか」「財源をどう確保するのか」といった点は大きな課題であり、今後取り組むべきことは多々あると認識しています。 今後、5年間の検証を市としてもしっかりと行っていかなければなりませんし、また外部の皆様へも進行状況のチェックをしていただくことがあるかと思ひます。その際には、改めて、委員の皆様にご意見をいただくこともあるかと思ひますが、是非とも積極的なご意見・ご要望等をいただき、より良いものを作り上げていければと考えています。 委員の皆様におかれましては、短い期間の中でありましたが、計画にご理解をいただき、本当にありがとうございました。習志野市としてもこの先しっかりと取り組んで参りますので、これからもご支援・ご協力の程、よろしくお願ひいたします。本当にありがとうございました。 「人口ビジョン・総合戦略」については、本日のご意見を踏まえ修正をして、30日（金）の庁内会議で決定されるということです。委員の皆様には、完成版を後日郵送で送っていただけるとのことです。 また、委員の皆様には是非、組織の方でPRをしていただき、これからは応援隊として協力をしていただきますよう、よろしくお願ひいたします。 今後、「アクションプラン」の作成についても、完成したものについては後日、委員の皆様を送っていただけるとのことです。 それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。 長時間に渡り、ありがとうございました。 閉 会
-----------	---